

# VOICE

## 5月、平和について考える三題

常任理事（機関紙部・平和と登山委員会） 大西清見

憲法施行から78年を迎えた憲法記念日の5月3日、東京・大阪などで憲法大集会が開かれました（大阪では「憲法記念日、おおさか総がかり集会）。いずれも被爆国、核廃絶こそ人類を救う、憲法九条を守れ、の大きなテーマの憲法大集会でした。しかし、当日、翌日でその報道・言及を報じたテレビや新聞はほんのわずかでした。4日付の新聞では「毎日新聞」が「平和を願う心、同じだけれど」と護憲派、改憲派双方の写真も入れて報じていました。東京では「東京新聞」が一面と社会面で「核兵器を使ってはならない、被団協の田中さん、平和の敬称訴え」と「憲法大集会」を詳しく紹介紹介していたそうです。テレビではTBS系サンデーモーニングで、改憲派、護憲派の集会を報じた後、司会の膳場貴子さんが「憲法施行78年、憲法に対する思い」をゲストの歌手・加藤登紀子さんにコメントを求めています。加藤さんの「戦後を見てきた世代。憲法を守り抜いてきたことは日本の宝だと思いつている」と強調。これらについて私たちは、施行78年の憲法について考えていく、憲法九条を守っていく、という取り組みを進めていきたいものです。

5月12日、大阪市十三の第七劇場で映画「太陽（ティダ）の運命」（ティダは太陽を意味し、その昔リーダーを意味する言葉）を観てきました。多くの沖縄の戦中・戦後史を描き、大きな話題を呼んだ佐古忠彦監督によるドキュメンタリーです。あらすは…沖縄県知事の大田昌秀と翁長雄志は、政治的に正反対な立場だった。両者とも任期中は県民から厚く支持され、革新的な県政で数々の実績を残していった。彼らは沖縄を代表する立場として、民主主義や地方自治のあり方を訴え続けた。この国の現在地を探っていく…。映画の終盤、二人の元知事を指して「美しい両輪だった」と語られ、その言葉のイメージは、ピアノの旋律の中にも感じられたように思いました。沖縄には日本の矛盾が詰まっていると言われていて、日米地協定、米兵少女暴行事件、普天間基地移設問題、辺野古新基地建設問題、教科書検定問題、そして最近の沖縄の尊厳傷つける暴論（N議員のひめゆり発言）、これらの問題を映画を通して、日本の民主主義や地方自治のあり方を考えていきたいと思いました。

今年も国民平和行進の時期を迎えました。今年の大阪の平和行進・幹線コースは6月30日～7月7日の8日間ですが、来年からは酷暑対策などを考慮して、この8日間は半日コース、残りの半日分は6月29日以前に前倒しになるようです（検討中）。今年度の平和行進は、6月30日に大阪に引き継がれます。大阪到着は、6月30日（月）、柏原市で奈良県連から労山旗を引き継ぎ、7月7日（月）川西市で兵庫県連に引き渡します。大阪労山も8日間、各山岳会・クラブと連携しながら「平和あってこそ登山」の労山の理念に、核兵器廃絶を訴えてながら歩いていきたいと思つています。各コース・通過地点・通過時刻（予定）を労山ニュースにも掲載しましたので、みなさんの都合の良い日時、コースでご参加ください。